

安全データシート

(S D S)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 グラスプ
製品番号 GR-30HS

会社 : 株式会社グラスプ
住所 : 神奈川県横浜市西区戸部本町 33-13
担当部門 :
電話番号 : 045-326-2130, FAX 045-326-2131
e-mail アドレス :
緊急連絡先 : 045-326-2130
作成日 : 2002 年 7 月 30 日
改訂日 : 2016 年 5 月 30 日

SDS 整理番号 NE-70

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分 2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分 2 A
呼吸器感作性 : 区分 1
皮膚感作性 : 区分 1
生殖刺激 : 区分 16
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分 3 (気道刺激性)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) (吸入) : 区分 2 (呼吸器系, 気道)
水生環境有害性(急性) : 区分 3
水生環境有害性(長期間) : 区分 3

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語

危険

(2. 危険有害性の要約つづき)

危険有害性情報

- ・ H315 皮膚刺激
- ・ H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- ・ H319 強い眼刺激
- ・ H334 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ
- ・ H335 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ H373 長期にわたる、又は反復暴露（吸入）による臓器障害のおそれ（呼吸器系、気道）
- ・ H412 長期間継続的影響によって水生生物に有害。

注意書き

<安全対策>

- ・ P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・ P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・ P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
- ・ P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・ P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・ P280 保護手袋、保護めがね、保護面を着用すること。
- ・ P284（換気が不十分な場合）呼吸用保護具を着用すること。

<応急措置>

- ・ P302+P352 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
- ・ P304+P340+P312 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・ P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ P333+P313 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断・手当てを受けること。
- ・ P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断・手当てを受けること。
- ・ P342+P311 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
- ・ P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

<保管>

- ・ P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・ P405 施錠して保管すること。

<廃棄>

- ・ P501 残余内容物・容器等は産業廃棄物として適正に廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

重篤な兆候及び想定される非常事態の概要：情報なし。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分

成 分	C A S No.	化審法／安衛法番号	含 有 量
ISOCYANATE	101-68-8	(4)-118/(4)-118	35.5153%
Talc	14807-96-6	(1)-468/(1)-468	>=30-<40%
POLYMER	25686-28-6		>=10-<20%
POLYMER	57596-50-6		>=1-<10%
PROPYLENE CARBONATE	108-32-7	(5)-524/(7)-737	>=1-<10%
PIPERAZINE	110-85-0	(5)-953/(5)-953	>=0.1-<1%
DIBUTYLTINBIS (LAURYL MERCAPTIDE)	1185-81-5	(2)-3035/(2)3035	>=0.1-<1%
CARBON BLACK	1333-86-4	(5)-3328/(5)-3328	>=0.1-<1%

4. 応急措置

一般的アドバイス：危険区域から避難させる。

暴露したか気分が悪くなった場合には、中毒センター
(POISON CENTER) または医師に電話する。

安全データシート (SDS) を担当医に見せる。

被災者を一人にしない。

様々な暴露ルートによる応急措置

眼に入った場合：直ちに、眼を十分な流水で、勢いよく洗い流す。

コンタクトレンズをはずす。

損傷していない眼を保護する。

皮膚に付着した場合：汚染した衣類を脱ぐ。刺激が現れる場合には医師の診察を受ける。

皮膚に触れた部分は大量の水ですすぐ。

汚染された衣服は洗濯した後に再使用すること。

吸入した場合：新鮮な空気のある場所に移動する。

直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。

患者を暖かく安静にしておく。

意識がない場合は、回復体勢にし、医師の指示を受ける。

飲み込んだ場合：医療措置を受ける。

ミルクやアルコール飲料を与えない。

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。

症状が持続する場合は、医師に連絡する。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 (new)：

肺水腫は遅延性の可能性あり。

この物質に対し、吸い込み、飲み込みによる露出、および/あるいは皮膚
を通しての浸透の徴候と症状には、次のようなものが挙げられます。

胃腸の不快感 (吐き気、嘔吐、下痢)

過敏 (鼻、のど、気管)

咳

頭痛

胸痛

(4. 応急措置つづき)

肺浮腫（肺組織内の流体の蓄積）
 呼吸困難
 皮膚刺激
 アレルギー性皮膚反応のおそれ
 強い眼刺激
 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 発がんのおそれ
 長期、反復暴露による臓器障害のおそれ

医師に対する特別な注意事項(new)：

特別な応急措置が必要になる危害要因はない。

5. 火災時の措置

消火剤：現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。
 水スプレー、泡、二酸化炭素(CO₂)、粉末消火剤
 使ってはならない消化剤：大型棒状の水（棒状注水）
 特定の危険有害性：火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止
 すること。
 有害燃焼副産物：二酸化炭素
 一酸化炭素
 シアン化水素（青酸）
 イソシアネート
 窒素酸化物（NO_x）
 アルデヒド類
 ケトン類
 ハロゲン化炭化水素
 窒素酸化物(NO_x)
 臭素
 炭化水素
 特有の消火方法：火災の残留物や汚染した消火排水は関係法規に従って処理
 する。
 消火を行う者の保護：火災時には、自給式呼吸器を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
 保護具を使用する。
 十分な換気を確保する。
 防護用具を身につけていない人は清掃が完了するまで、流出エリ
 アに立ち入らないようにしてください。
 環境に対する注意事項：製品を排水施設に流してはならない。
 安全を確認してから、漏れやこぼれを止める。
 製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に
 連絡する。
 封じ込め及び浄化の方法・機材：不活性の吸着剤（砂、シリカゲル、酸性結合剤、汎用結
 合剤おがくずなど）で吸収させる。
 廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。
 追加アドバイス：地域・国・現地の該当する全ての規制を順守してください。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 標準的な防火方法

安全取扱注意事項 : エアゾールの発生を避けること。

作業室の換気や排気を十分に行う。

蒸気/粉塵を吸い込まない。

禁煙。

皮膚感作性並びに喘息、アレルギー、慢性または反復性の呼吸器疾病を有する人は、この製剤を使用する全ての工程に従事しないことが望ましい。

空の容器は危険。

暴露を避ける-使用前に特別指示を受ける。

皮膚や眼への接触を避けること。

作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。

個人保護については項目 8 を参照する。

洗浄水は、国及び地方自治体の規制に従い処分する。

接触回避 : 酸類、アルコール類、アルミニウム、アミン、アンモニア、塩基類
銅合金、フッ化物、鉄、イソシアネート、酸化剤、リン化合物、
強アルカリ、強還元剤、水、亜鉛、湿気

保管

安全な保管条件 : 容器は確実に密閉し、保管場所は火気厳禁とする。

直射日光及び高温を避け、乾燥した換気のよい場所に保存する。

ラベルの予防措置を遵守する。

電気設備及び作業資材は技術安全基準に準拠していなければならない。

混触禁止物質 : 酸類、アルコール類、アルミニウム、アミン、アンモニア、塩基類
銅合金、フッ化物、鉄、イソシアネート、酸化剤、リン化合物、
強アルカリ、強還元剤、水、亜鉛、湿気

その他のデータ : 指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。

8. ばく露防止および保護措置

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

成分	CAS No.	価値（暴露形態）	管理濃度/許容濃度	出典
ISOCYANATE	101-68-8		0.05mg/m ³	日本産業衛生学会
Talc	14807-96-6	(吸入性粉塵)	0.5mg/m ³	日本産業衛生学会
		(総粉塵)	2mg/m ³	日本産業衛生学会
CARBON BLACK	1333-86-4	(吸入性粉塵)	1 mg/m ³	日本産業衛生学会
		(総粉塵)	4 mg/m ³	日本産業衛生学会

設備対策 : 曝露ガイドライン以下の曝露（該当する場合）、または既知の原因のレベル以下（疑いのある場合）、明確な有害作用を維持するのに十分な機械的（一般および局所排気）換気を行う。

保護具

呼吸用保護具 : 蒸気を形成する場合は、適合したフィルターの付いた呼吸装置を使用する。

ジイソシアネートは貧しい警告特性を有する。有機ガスカートリッジ及びN95プレフィルター付き空気浄化レスピレータ

(8. ばく露防止および保護措置つづき)

暴露を減らすために安全かつ有効に使用することができ、適切なカートリッジ交換スケジュールがブレイクスルーが発生する前に、カートリッジが変更されていることを確認するために開発されていることを条件とする。雇用者は、それぞれの状況に応じて適切な呼吸用保護具を選択する必要があるとのジイソシアネートに加えて、化学物質への暴露の可能性を考慮する必要があります。

眼の保護具	: 液体、蒸気やミストに、目の暴露の可能性がある場合に、化学スプラッシュゴーグルを着用する。
手の保護具	: 製造メーカーと相談の上、作業場所に相応しい防護手袋を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	: 必要に応じて着用 不浸透性衣服 安全靴 作業場にある危険物質の量および濃度に応じて、保護具を選択する。 裂けていたり、小さな穴が開いていたり、摩耗した手袋は捨てる。
衛生対策	: 休憩前や終業時には手を洗うこと。 作業中は飲食、喫煙をしない。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 液体
臭い	: データなし
pH	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: 93.4℃以上
爆発範囲の上限	: データなし
爆発範囲の下限	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度	: データなし
溶解度	
水に対する溶解性	: データなし
溶媒に対する溶解性	: データなし
n-オクタノール/水分分配係数	: データなし
自然発火性	: データなし
熱分解	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 指示通りに保管または使用した場合は、分解しない。
化学的安定性	: 推奨保管条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 危険な重合は起こらない

(10. 安定性及び反応性つづき)

避けるべき条件	: 熱、凍結温度、湿気への暴露
混触危険物質	: 酸類、アルコール類、アルミニウム、アミン、アンモニア、塩基類、銅合金、フッ化物、鉄、イソシアネート、酸化剤、リン化合物、強アルカリ、強還元剤、水、亜鉛、湿気
有害な分解生成物	: 二酸化炭素、一酸化炭素、炭化水素、シアン化水素（青酸）イソシアネート、窒素酸化物（NOx）

11. 有害性情報

可能性のある暴露経路の情報	: 吸入 皮膚に付着した場合 眼に入った場合 飲み込んだ場合
---------------	---

製品

急性毒性（経口）	: データなし
急性毒性（吸入）	: データなし
急性毒性（経皮）	: データなし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 皮膚に刺激/皮膚炎を起こす恐れあり。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:	蒸気は眼、呼吸器系及び皮膚に刺激を与える可能性。 強い眼刺激
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 皮膚にアレルギー反応を起こす恐れあり。
詳細情報	: データなし

成分**ISOCYANATE**

急性毒性（経口）	: LD50（ラット） 9,200mg/kg
急性毒性（吸入）	: LC50（ラット） 0.369mg/l 暴露時間: 4h LC50（ラット） > 2.24mg/l 暴露時間: 1h 試験環境 : ダスト/噴霧 方法 : OECD 試験ガイドライン 403 コンポーネント/混合物は急性吸入毒性、カテゴリ 4 に分類される。
急性毒性（経皮）	: LD50（ウサギ） >7,900mg/kg
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類: 吸入による感作発生の可能性。 分類: 皮膚に触れると感作を起こす恐れあり。
特定標的臓器毒性（単回暴露）	: 暴露の主経路: 吸入 標的臓器: 呼吸器系 アセスメント: 呼吸器への刺激の恐れ。
特定標的臓器毒性（反復暴露）	: 暴露の主経路: 吸入 標的臓器: 呼吸器系 アセスメント: 長期にわたる、または反復暴露による臓器障害の恐れ。

POLYMER

急性毒性（経口）	: LD50（ラット） >5,000mg/kg 方法 : OECD 試験ガイドライン 425 GLP 該当
急性毒性（吸入）	: コンポーネント/混合物は急性吸入毒性、カテゴリ 4 に

(11. 有害性情報つづき)

	分類される。
急性毒性（経皮）	: LD50（ウサギ） >9,400mg/kg 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 試験方法：最大化試験 種：モルモット 分類：皮膚に触れると感作を起こす恐れ。 結果：製品は皮膚過敏化性である 副分類：1A 分類：吸入による感作発生の可能性。 結果：製品は呼吸器過敏化性である 副分類：1A
生殖細胞変異原性	
in vitro での遺伝毒性	: タイプ Ames 試験 結果 陰性 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。
in vitro での遺伝毒性	: タイプ in vivo 小核試験 テスト種 ラット 方法 OECD 試験ガイドライン 474 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。
特定標的臓器毒性（単回暴露）	: 暴露の主経路 吸入 標的臓器 気道 アセスメント：呼吸器への刺激の恐れ。
特定標的臓器毒性（反復暴露）	: 暴露の主経路 吸入 標的臓器 気道 アセスメント：長期にわたる、または反復暴露による臓器障害の恐れ。

POLYMER

呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類：皮膚に触れると感作を起こす恐れあり 分類：吸入による感作発生の可能性。
---------------	---

PROPYLENE CARBONATE

急性毒性（経口）	: LD50（ラット） 29.1g/kg
急性毒性（経皮）	: LD50（ウサギ） >24g/kg
生殖細胞変異原性	
in vitro での遺伝毒性	: タイプ Ames 試験 テスト種 : <i>Salmonella typhimurium</i> 代謝活性化の存在または不存在 結果 陰性 方法 OECD 試験ガイドライン 471
in vitro での遺伝毒性	: タイプ 小核試験 テスト種 マウス、骨髄 方法 OECD 試験ガイドライン 474 結果 陰性

PIPERAZINE

急性毒性（経口）	: LD50（ラット） 約 2,600mg/kg 方法 OECD 試験ガイドライン 401
急性毒性（吸入）	: LC50（ラット） 1.61mg/l 暴露時間：8h

(11. 有害性情報つづき)

試験環境 蒸気

呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 分類: 製品は呼吸器過敏化性である。副分類 1B

分類: 製品は皮膚過敏化性である。副分類 1B

生殖毒性-アセスメント : 動物実験によると性的機能及び繁殖力および発育への悪影響があることが一部立証されている。

CARBON BLACK:

急性毒性 (経口) : LD50 (ラット) >8,000mg/kg

呼吸器感作性又は皮膚感作性: 試験方法: ビューラー試験

種: モルモット

分類: 皮膚を過敏化させない。

方法: OECD 試験ガイドライン 406

生殖細胞変異原性

in vitro での遺伝毒性 : タイプ Ames 試験

Salmonella typhimurium

代謝活性化の存在または不存在

結果 陰性

12. 環境影響情報

生態毒性**製品**

データなし

成分**ISOCYANATE**魚毒性 : LC50 (*Oryzias latipes* (オレンジレッドタガヤシ))

>3,000mg/l 暴露時間: 96h

試験方法 半静止試験

本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:

EC50 (*Daphnia magna* (オオミジンコ)) >100mg/l

暴露時間: 24h

試験方法 止水式試験

方法 OECD 試験ガイドライン 202

本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性):

最大無影響濃度 >10mg/l 暴露時間: 21d

生殖 (繁殖) 試験

種 *Daphnia magna* (オオミジンコ)

試験方法 半静止試験

方法 OECD 試験ガイドライン 211

本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

(12. 環境影響情報つづき)

POLYMER

- 魚毒性 : LC50 (*Oryzias latipes* (和メダカ)) >3,000mg/l
 暴露時間: 96h
 試験方法 半静止試験
 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。
- ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:
 EC50 (*Daphnia magna* (オオミジンコ)) >1,000mg/l
 暴露時間: 24h
 試験方法 止水式試験
 方法 OECD 試験ガイドライン 202
 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。
- 藻類に対する毒性 : 最大無影響濃度 (*Desmodesmus subspicatus* (緑藻))
 : 1,640mg/l 暴露時間: 72h
 試験方法 止水式試験
 方法 OECD 試験ガイドライン 201
 本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

PROPYLENE CARBONATE

- 魚毒性 : LC50 (*Cyprinus carpio* (コイ)) >1,000mg/l
 暴露時間: 96h
 試験方法 半静止試験
 方法: 指令 67/548/ECC, Annex V, C.1.
- ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:
 EC50 (*Daphnia magna* (オオミジンコ)) >1,000mg/l
 暴露時間: 48h
 試験方法: 止水式試験
 方法: OECD 試験ガイドライン 202
- 藻類に対する毒性 : EC50 (*Desmodesmus subspicatus* (緑藻)) >900mg/l
 暴露時間: 72h
 試験方法: 止水式試験
 方法: OECD 試験ガイドライン 201
 最大無影響濃度 (*Desmodesmus subspicatus* (緑藻)) 900mg/l
 暴露時間: 72h
 試験方法: 止水式試験
 方法: OECD 試験ガイドライン 201

PIPERAZINE

- 魚毒性 : LC50 (*Poecilia reticulata* (グッピー)) >1,800mg/l
 暴露時間: 96h
- ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:
 : EC50 (*Daphnia magna* (オオミジンコ)) 21mg/l
 暴露時間: 48h
 方法: OECD 試験ガイドライン 202
- 藻類に対する毒性 : EC50 (*Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻)) >1,000mg/l
 暴露時間: 72h
 方法: OECD 試験ガイドライン 201
- ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性) :
 : 最大無影響濃度 12.5mg/l
 暴露時間: 21d
 種: *Daphnia magna* (オオミジンコ)
 方法: OECD 試験ガイドライン 211

(12. 環境影響情報つづき)

CARBON BLACK:

魚毒性 : LC50 (Danio rerio (ゼブラフィッシュ)) >1,000mg/l

暴露時間 : 96h

試験方法: 半静止試験

溶解度限界値における毒性無し

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性:

EC50 (Daphna magna (オオミジンコ)) : >5,600mg/l

暴露時間 : 24h

試験方法: 止水式試験

溶解度限界値における毒性無し

藻類に対する毒性 : EC50 (Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻)) >10,000mg/l

暴露時間 : 72h

試験方法 : 止水式試験

溶解度限界値における毒性無し

残留性・分解性**製品:**

データなし

成分:**ISOCYANATE:**

生分解性

: 結果: 分解性なし

生分解: 0%

暴露時間: 28d

方法: OECD 試験ガイドライン 302C

本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

POLYMER:

生分解性

: 結果: 易分解性ではない

生分解: 0%

暴露時間: 28d

方法: OECD 試験ガイドライン 302C

PROPYLENE CARBONATE:

生分解性

: 結果: 易分解性

生分解: 87.1%

暴露時間: 29d

方法: OECD 試験ガイドライン 301B

PIPERAZINE:

生分解性

: 結果: 易分解性

生分解: 70%

暴露時間: 28d

方法: OECD 試験ガイドライン 301F

CARBON BLACK:

生分解性

: 結果: 生分解性の判定方法は無機物質には適用されない。

生態蓄積性**製品:**

データなし

成分:

(12. 環境影響情報つづき)

PROPYLENE CARBONATE:

n-オクタノール／水分配係数 : log Pow : -0.41

PIPERAZINE:

n-オクタノール／水分配係数 : log Pow : -1.17

土壌中の移動性

製品:

データなし

成分:

データなし

他の有害影響

製品:

オゾン層への有害性

生態系に関する追加情報 : データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

残余廃棄物 : 廃棄物を下水へ排出してはならない。
薬剤または使用済み容器で河川や水路を汚染しないこと。
認可された廃棄物処理業者へ委託すること。

汚染容器及び包装 : 残りの容器を空にする
製品入り容器と同様に処分する
空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、認可を受けた廃棄物処理業者に委託する
空の容器を再使用しないこと。

廃棄上の注意 : 関係法令を遵守し、自治体の指示に従い処分すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国際海上危険物 : 非危険物

国際航空運送協会－貨物便 : 非危険物

国際航空運送協会－乗客便 : 非危険物

UN_DG : 非危険物

* ORM=ORM-D, CLB=COMBUSTIBLE LIQUID

海洋汚染物質 : 非該当

MARPOL 73/78 付属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

タイプを出荷する : 非該当

主な危険性 : 非該当

汚染物質カテゴリー : 非該当

15. 適用法令

物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

国内適用法令

消防法 : 第4類, 第3石油類 危険等級Ⅲ 非水溶性液体 (2,000L)

化審法

優先評価化学物質 : メチレンビス (4,1-フェニレン) = ジイソシアネート 番号:74

(15. 適用法令つづき)

労働安全衛生法

製造が禁止される有害物 : 非該当

製造の許可を受けるべき有害物 : 非該当

健康障害防止指針公表物質 : 非該当

変異原性の認められた化学物質

既存化学物質 : 非該当

新規届出化学物質 : 非該当

名称を通知・表示すべき危険物及び有害物 :

メチレンビス (4, 1-フェニレン) = ジイソシアネート 番号: 599 含有量: ≥ 30 - $< 40\%$ カーボンブラック 番号: 130 含有量: ≥ 0.1 - $< 1\%$

特定化学物質障害予防規則 : 非該当

鉛中毒予防規則 : 非該当

四アルキル鉛中毒 : 非該当

有機溶剤中毒予防規則 : 非該当

毒物及び劇物取締法 : 非該当

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR)

第1種指定化学物質 :

メチレンビス (4, 1-フェニレン) = ジイソシアネート 番号: 448 含有量: 36%

その他の国際規制

既存化学物質リスト

米国 有害物質規制法 (TSCA) : 登録済み

カナダ カナダ環境保護法 (CEPA) 国内物質リスト (DSL) : 登録済み

オーストラリア 工業化学 (通知およびアセスメント) 法 : 登録済み

日本 化審法リスト : e (特別例)

韓国 有毒な化学物質管理法 (TCCL) 一覧 : 登録済み

フィリピン 有害物質や有害と核廃棄物管理法 : 登録なし

中国 既存化学物質インベントリー (IECSC) : 登録済み

16. その他の情報

略語 :

ACGIH : 米国産業衛生専門家会議

BEI : 生物学的暴露指標

CAS : ケミカル・アブストラクツ・サービス (米国化学会の情報部門)

CMR : 発癌性、変異原性、生殖毒性物質

Ecxx : xx の有効濃度

FG : 食品等級

GHS : 化学品の分類および表示に関する世界調和システム

H-statement : 危険有害性情報

IATA : 国際航空運送協会

IATA-DGR : 「国際航空運送協会」(IATA) による危険物規則書

ICAO : 国際民間航空機関

ICAO-TI (ICAO) : 「国際民間航空機関」による技術指示

ICxx : 化合物の xx% 阻害濃度

IMDG : 国際海上危険物規則

ISO : 国際標準化機構

LCxx : 試験母集団 xx% の致死濃度

LDxx : 試験母集団 xx% の致死用量

(16. その他の情報つづき)

logPow：オクタノール／水分配係数

N.O.S.：他に特定されない

OECD：経済協力開発機構

OEL：職業暴露限界

PBT：難分解性、生体蓄積性、毒性物質

PEC：環境中予測濃度

PEL：許容暴露濃度

PNEC：予測無影響濃度

PPE：個人用保護具

P-Statement：注意絵表示

STEL：短時間暴露限界値

STOT：特定標的臓器毒性

TLV：暴露限界

TWA：時間荷重平均

vPvB：極めて難分解性で高い生物蓄積性を有する物質

WEL：職場暴露限界

AU OEL：オーストラリア 空気中の汚染物質の職場暴露基準。

CN OEL：中国 職業暴露限度

HK OEL：香港 職場における大気不純物の制御に関する行動規範（化学物質）

IN OEL：インド 作業環境中の特定の化学物質の許容レベル。

ID OEL：インドネシア 職業暴露限度

JPJSH OEL：日本 日本産業衛生学会。職業暴露限度の勧告

JPISHL OEL：日本 管理制御レベル

KOR OEL：韓国 職業暴露限度

MY OEL：マレーシア 労働安全衛生（健康への有害化学物質の曝露基準）

NZ OEL：ニュージーランド 大気中の汚染物質の職場暴露基準

PH OEL：フィリピン 空気中の汚染物質のためのしきい値の制限値

SG OEL：シンガポール 職場の安全衛生法 - 有害物質の第 1 附則許容暴露限界値

TW OEL：台湾 職場における空気中の有害物質の濃度レベルに関する基準

TH OEL：タイ 職業暴露限度

VN OEL：ベトナム 職業暴露限度

- ・危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の取り扱いを対象としたものです。
- ・本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱って下さい。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保証もするものではありません。
また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。